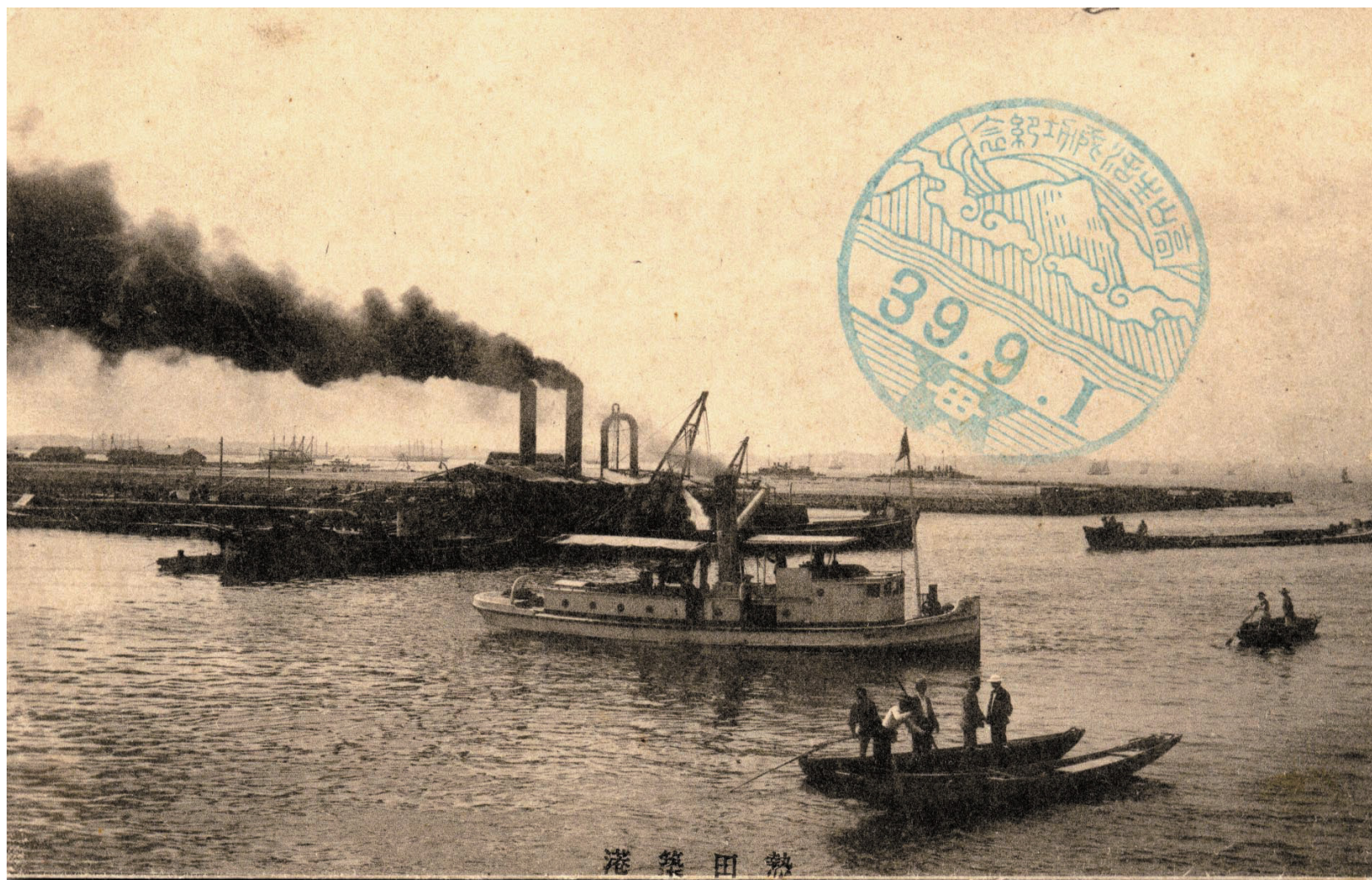




なごやこう
名古屋港をつくるようす

めいじ ねん
明治39年(1906)

さぎょうせん うみ ふか おお ふね みなと はい
作業船で海のそこをほって深くし、大きな船が港に入ることができるようにした。

めいじ ねん なごやこう
明治40年に名古屋港ができあがった。



おお ふね はい な ご や こう
大きな船が入る名古屋港

たいしょう しょうわ ねん
大正～昭和(1920～1930年ごろ)

みなと うみ もの はこ
港ができて、海からの物の運びいれがべんりになった。

かいがい もの
これにより、海外との物のやりとりもできるようになった。



撮影：
寺西二郎

こうじょう な ご や こう
工場がたつ名古屋港

しょうわ ねん
昭和40年(1965)ごろ

しょうわ ねん な ご や こう と ち こうじょう
昭和30年(1955)になると、名古屋港のまわりでは、土地をうめたてて工場が
たくさんつくられた。 こうそくどう ろ とお もの はこ
高速道路が通り、ますます物の運びいれがべんりになった。



撮影：飯田米蔵

なごやこうにもつ
名古屋港での荷物の積みおろしのようす

しょうわねん
昭和31年(1956)



撮影：飯田米蔵

なごやこうにもつ
名古屋港での荷物の積みおろしのようす

しょうわねん
昭和31年(1956)



撮影：寺西二郎

なごやこう
名古屋港のようす

しょうわ ねん
昭和40年(1965)ごろ



撮影：
寺西二郎

かりよくはつでんしょ
火力発電所とだん地のようす

しょうわ ねん
昭和40年(1965)ごろ



撮影：
寺西二郎

なごやこう
名古屋港のまわりにたつ工場のようす

しょうわねん
昭和40年(1965)ごろ



撮影：
寺西二郎

なごやこう
名古屋港のまわりのうめたて地と子どもたち

しょうわ ねん
昭和40年(1965)ごろ



なごやこう
いまの名古屋港

へいせい ねん
平成30年(2018)

なごやこう にほん だいひょう みなと した みなと
いまの名古屋港は、日本を代表する港。親しまれる港づくりをめざして、
すいぞくかん たの おお ひと
水族館などができた。楽しいしせつがたくさんあり、多くの人がやってくる。